

<つながりアクションチーム>

【児童生徒の実態】

知的好奇心が高く、学習態度は良好で、課題に対し熱心に取り組むことができる。また、礼儀正しく落ち着いた態度で生活をしている。急速に発展した新興住宅地であり、地域住民や保護者は他県や他地域出身の割合が高く、育成会や地域の伝統的な行事が少ないため、子供たちと地域とのつながりが薄い。

【部会のねらい】

地域やふるさとの良さを知り、地域の一員として年中行事やボランティア活動に主体的に参加し、地域とのつながりを感じ、愛着を育てる。

視点	<A> 教育課程の工夫改善	 教育活動の連続性の確保	<C> 教職員間の連続・協働	<D> 家庭・地域との連携・協力
----	------------------	--------------------	-------------------	---------------------

取組	子ども未来プロジェクト	小中合同クリーン活動	小中学生と地域住民とのつながりがもてる企画
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・二中学区でのいじめ防止のスローガンを作成することができた。さらに、そのスローガンを11月の下野市いじめ防止強調月間に合わせて掲示することができた。 ・小・中学校の成長段階に応じて、いじめを取り上げた道徳や話し合い活動を行い、啓発できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・WinBirdの掲示板を活用したことで、やり取りが可視化でき、活動にまとまりがあった。 ・教員への意識付けがあり、小中の教員同士の関わりができた。 ・レクリエーションを行ってからクリーン活動を行ったため、スムーズに協力しながら活動できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども未来プロジェクトや小中合同クリーン活動の他にも小中の音楽交流や南河内第二中の30周年記念の夏椿祭を通して、多くの小学生や地域の方々と交流することができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度はスローガンの作成と掲示がメインの活動になったが、今後は、子ども未来プロジェクトに小学生にも関わりを増やしていけるような取組を行いたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生と中学生だけで、当日行えるような事前指導ができるとう良い。 ・小中合同の行事であり、外部の清掃業者も入るため、事前の連携・連絡・周知を早くするほど、指導する先生方も動きやすくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中の地域連携教員と地域コーディネーターとの継続的な連携が必要。 ・来年度のつながりアクション部会でも、子ども未来プロジェクトと小中合同クリーン活動の2本柱として、小・中・地域連携を強化していく方向で検討していく。 ・地域の方々との交流する機会を増やしていけるように、既存の行事の活用を考えていく。



子ども未来プロジェクト会議(R5.7)



創立30周年記念夏椿祭(R5.10)



小中合同クリーン活動(R5.11)